

れんぎ
認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**
 【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
 Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
 Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/
 【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
 Tel.+86-871-63311468 Fax.+86-871-63320658
 f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
 ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
 編集・発行人 初鹿野 惠蘭
 印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



彩雲の南

Japan Yunnan Friendship Association

第69号

発行日 2019年(令和元年)7月15日

会報

25の小さな夢基金

～日中青少年友好交流年～ in 第6回 日雲高校生国際交流プログラム 3月8日

日中のかけ橋を高校生が築く

上海日本人学校高等部訪問



私が雲南省昆明を見続けて13年、昆明の街は大きく発展しました。しかし、発展に取り残された感のある地方から出てくる春蕾生は、いつも期待と不安が入り混じった中で都会暮らしをしているように見えます。そんな彼女たちが今回向かったのは大都会上海。そして外国人学生(上海日本人学校)との交流会。地方ではありえない機会に春蕾生8名は大変緊張した面持ちでした。

迎える側の上海日本人学校高校生は、ほとんど敷地内にある自宅と学校で暮らしています。会話もほぼ日本語で、中国語を使うのは買い物に行った時程度。中国人の知り合いも少ないのが現状です。

今回、春蕾生と上海日本人学校高等部の交流という「きっかけ」を協会が設けたことで、相互の高校生にたくさんの「気づき」があったの

が大きな成果でした。いつもは春蕾生側からの視点ですが、今回は日本人生徒側からの「気づき」についてレポートしたいと思います。

交流会にあたり、日本人学校高等部の生徒は2か月前から日本文化を紹介する準備を進めてきました。茶道、柔道、剣道、アニメ、折り紙、福笑い、浴衣体験等々。中国の学生にはあまり見られない、自分たちだけで企画したテーマの数々。各クラスともチームとしての実力を大いに発揮できたと思います。しかし、日本人独特の「気遣い」が上手く伝えられなかった生徒も時折見受けられました。長く住んでいる学生は流暢な中国語を話せますが、来て間もない学生はなかなかコミュニケーションがとれず不完全燃焼だったようです。

私は普段、春蕾生に問いかけている「将来は何になりたい?」「夢は?」という質問を日本

人生徒にも聞いてみました。「特に決まってないけど、とりあえず大学に行って…」「日中のかけ橋になりたい」と様々な答えがありました。ただ、今回の交流会を「きっかけ」に自分が置かれた環境は、他の日本人とは違うという「気づき」があったようです。

少数民族の文化についてもっと知りたい。そのためにもっとコミュニケーションを図りたい。そのためにもっと中国語を習得し、行動で気持ちを伝えたい…。中国在住だからこそ日中の文化を容易に伝えられる、中国在住だからこ

25の小さな夢基金 日中のかけ橋となった1日

「バクッ、バクッ、バクッ」騒がしい環境の中でも自分の心臓の音が聞こえ、片手には汗がにじんだマイクを強く握りしめていました。

「これから昆明市女子中学との交流会を始めます。」

緊張はしていたが、日中のかけ橋となる実感が湧いた鮮明な瞬間でした。

2019年3月8日金曜日、上海日本人学校高等部は春蕾生と交流会を行いました。私はこの交流会の実行委員会の副委員長と開会式の司会、そして、春蕾生の誘導係を務めました。開会式では、日本文化の紹介があり、私たちは、茶道、柔道、剣道、そして合唱を披露しました。茶道はお茶を春蕾生の皆さんに目の前でたてたお茶を実際に飲んでもらい、日本文化を見るだけでなく体験してもらえたので良い経験になったのではないのかと思いました。

次に、お互いをよく深く知るためのゲームを行いました。自己紹介ができるゲームや、お互いの協力し合うことが必要なゲームをしました。ゲームが終わった頃には、両校の生徒の口から「楽しかった!」「これからも仲良くしていこうね。」などの心温まるコメントが聞こえてきて、交流がしっかりとできていて、実行委員としての達成感を感じました。

そして、私は春蕾生を引率してクラス周りをしました。引率する中で相手の学校の事情、民族の伝

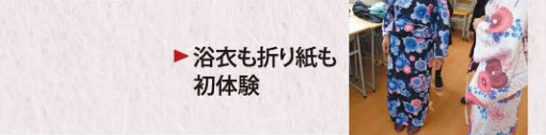
統のことなど、引率する係だからこそ、知ることができることをたくさん知ることができました。また、クラス周りで折り紙では、仲良く教えあう場面が見ることができました。

楽しい時間は早く過ぎ、最後の閉会式がやってきました。閉会式では春蕾生が民族の踊りと歌を披露してくださいました。見たことのない踊りや、聞いたことのない、中国の民族文化を知ることができました。私は、お互いの文化理解もここでより深くなったのではないかと感じました。これらを通して、お互いの文化を伝えることは楽しく、うれしいことだし、中国にいる私たちこそもっと容易に日中文化を伝えることができるので、私は日中のかけ橋となれたと今回の交流会を通して感じました。

上海日本人学校高等部 米倉嘉陽



▲茶道初体験の春蕾生



▶浴衣も折り紙も初体験



そ日中のかけ橋になれる恵まれた環境なのだと「気づき」に、日本人高校生の将来への大きな可能性を感じました。

日中関係が正常な軌道に戻つつある今、若い人たちが多様な価値観を認め合い、信頼関係を深めていくことを期待したいと思います。そして私は人生の先輩として今後もいろいろな「きっかけ」を投げかけていこうと思います。若い人たちは機会があれば、ほっておいてもすぐに友達になれるんです。

監事 佐伯義博



25の小さな夢基金 日本の細やかな気配りと自主性を学んだ

3月7日は鳥が競うように鳴きわたり、花が艶やかに色めく春の気分みなぎる日でした。飛行時間3時間ほど、約1000キロを経て魔都と呼ばれる上海に着きました。

多くの人でにぎわい高層ビルが林立している、というのが上海の第一印象でした。協会の平田さんは、30年前の上海の浦東はほとんど田畑だったと教えてくれました。わずか30年の短い間に、中国人民の知恵と努力で、天地を覆すような大きな変貌を上海はなしとげたのです。492mの上海環球金融センターに立つと、近代的な建物、多様な交通網の上海市が見渡せます。上海は世界各地の人を受け入れ、彼らが一生懸命生き抜き、夢を叶えようと努力することで、この都市の文化を多様化させています。

森茂診療所を参観し、日本人が健康を重んじていることと医療従事者の仕事に対する姿勢に感動しました。診療所の三木さんは「患者さんがここに来る時には、自分の家のように感じてほしい」とおっしゃいました。このような姿勢は、患者から評価されるだけでなく、充分な信頼を与えたいと思いました。診療所は人に優しい設計のうえ、先進的な医療機器を備えています。先生方は患者のためを思って仕事をしており、患者さんは本当に健康回復に望みを持っています。「患者のためを思い、安心してもらうため細かい部分に注意を払う」これこそ診療所の人たちの責任感をもっとよく表した言葉だと思います。

最も印象深かったのは上海日本人学校での交流でした。校門を入るとすぐに広々としたキャンパスと清潔な地面が目を引きました。まだ日本に行ったことがないのに日本の清潔な環境を感じました。生徒たちが通路をはさんで私たちを



▲すぐに友達になりました

歓迎してくれました。驚いたのは、責任者として私たちに対応したのは先生たちではなく生徒たちだったことです。交流会では、進行役も通訳も生徒たちで、茶道、柔道、日本の民謡などを披露してくれました。それから教室を参観し、ゲームなどをして、とても楽しかったです。後で知ったのですが、歓迎及び歓送の式典、その他のアレンジすべてを教師の指示ではなく、生徒自身で計画したとのことでした。私たち中国人の生徒はこうした自主的な意識が欠けています。これらの細かい点も私たちが考え学ぶべきものでした。

若者が強ければ国も強いのです。国の将来は若者のものです。中日両国の若者の交流促進を通じてお互いを理解し、中日関係を発展させたいです。もちろん、過去の歴史についても理性を持って考え、日本の礼節や優秀な文化を学ばなければなりません。それと同時に、自分の足りないところを見つけ、歴史的な痛みも肝に銘じつつ努力して学習し、中華民族の復興に貢献できればと思います。

1年 玉応香(タイ族)



▲それぞれの民族衣装で踊りを披露

25の小さな夢基金

第9回「夢は叶う」講演会 夢を持ち続け後悔しない人生について

「雲南山岳地帯に住む少数民族の彼女たちに夢や希望をもって、彼女たちの未来が幸せになることを願い、実現可能な一歩を踏み出してもらいたい」

そんな願いから、2009年に始まった「夢は叶う」講演会は日本社会の最前線で活躍する方々に講演をお願いし、今回で9回目を迎えました。

今回の講師は協会の佐伯義博監事のご紹介でステート・ストリート信託銀行株式会社取締役会長である高橋秀行さんをお願いし、4月19日(金)は昆明市女子中学にて、翌20日(土)は雲南大学にて講演を行いました。高橋さんは1979年野村証券に入社後、ルクセンブルグ、ドイツ、イギリスにおける勤務を経て、ノムラ・ホールディング・アメリカ Inc. 取締役社長兼CEO等、数々の会社で先鋭となり活躍した経験を持ち、様々な困難が世界的に起こる中で、高い目標をどのように達成してきたのか、そこから得た後悔しない生き方についてお話しいただきました。

主催：認定NPO法人日本雲南聯誼協会
ご協力（順不同、敬称略）：高橋秀行、高橋由美子、昆明市女子中学、雲南大学、日本雲南聯誼協会より：初鹿野恵蘭理事長、佐伯義博監事、林則幸理事



この度ご縁をいただき、雲南大学と昆明市女子中学でお話させて頂きました。テーマは、私自身のこれまでの経験を通じて自分が信じる事をお話するという内容でした。

雲南大学でも、昆明市女子中学でも私の拙い話を一生懸命聞いてくださいました。



高橋秀行さんの奥様の由美子さんもご同行されました

雲南大学では金融についても少し触れましたが、よく理解してくださり、良い質問を沢山いただきました。最近の先端学問である行動ファイナンスについても質問があり、内容に間違いがないよう英語でお答えしましたが、学生の皆さんが英語も良く理解されているのに驚きました。質の高



い教育と学生の皆さんの熱心さがひしひしと伝わってきました。

女子中学では、色とりどりの民族衣装を身にまとった生徒さんに出迎えていただきました。それぞれの民族の伝統を大事にしながら、目を輝かせて勉強し、寮生活を送っている姿がとても印象的でした。私の話も真剣に聞いてくださり、色々と素直で的を射た質問をいただきました。アニメ等を通して日本の文化や言葉にも親しみを持ってくださっているのがとても嬉しかったです。

一緒に昼食を食べながら色々なお話をしました。中には自分の故郷の村までバスに乗り継いで2日かかるというような遠方からの生徒さんもいて、そうした環境で一生懸命勉強している生徒さんたちに頭が下がる思いでした。

また、地元政府や財界等の方々にお招きいただき、貴重な意見交換をさせて頂きました。大変有意義で参考になりました。大変美味しい地元の料理も沢山いただきました。自然の恵みである果物やきのこ等の農産物が豊富で、松茸やトリュ



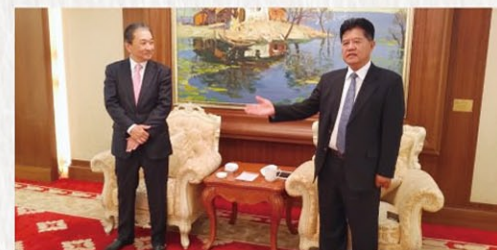
学生寮を訪問し春蕾生を励まされました

高橋秀行さんプロフィール：

2001年の9.11同時テロの際には野村證券米国現地法人の最高執行責任者(COO)として、従業員の安全確保や事業復旧を指揮するなど、企業のリスク対応に関しても豊富な経験と知見を有している。2014年より現職。

フが沢山自生しているのは羨ましい限りです。

いきいきとして、将来に向かって努力する雲南の若い人達と過ごせてとても素晴らしい経験で



公演終了後、春蕾生と交流



したし、私自身が初心に帰りもっと頑張ろうという気持ちになりました。

現地到着から昆明の空港を立つまで、初鹿野理事長はじめ協会の皆さんには大変お世話になりました。全てがスムーズに進んだ今回の講義は皆さんの完璧なアレンジと通訳がなければ実現できませんでした。心より御礼申し上げますとともに、御協会の益々の御発展を心より祈念申し上げます。

高橋秀行

25の小さな夢基金 心と心が通う 1対1の支援

2005年11月の入会以来、雲南の子どもたちの成長を温かく今日まで見守り続けている大崎功雄さん。2013年の全国巡回写真展「笑顔に君に」札幌特別展では地元ということで多くの関係機関への働きかけをしていただき、そして自らもボランティアとして毎日のように会場に足を運び、お手伝いをさせていただきました。5日間の開催中に2,500名を超える方が来場したのも大崎さんのご尽力のたまものです。また「ふれあいの旅」で「25の小さな夢基金」生徒のふるさとを訪ね、地元の方々とふれあい、貴重な体験をされました。



春蕾生卒業式にて(2014年7月)

「出会い」とは希望を繋ぐバトンタッチ

日本雲南聯誼協会との出会いは2005年のことです。その年の秋頃、会報『彩雲の南』第16号(2005年7月1日発行)が送られてきて、最初の紙面を飾る哈尼(ハニ)族の子らのはにかむような笑顔に魅了されたことを覚えています。なぜ私のところに送られてきたのかな?と思いつつも、協会発足5周年を記念する事業の一環であろうと推察しました。「第8校目小学校建設地が決定!」と題する初鹿野理事長の報告文を読み、少数民族の教育支援活動の意味と意義が直ちに読みとれました。しばらく心の中で温めたのち、この年の11月に入会の手続きを取りました。以来、会報は第67号にいたるまで大切に保存しております。

「25の小さな夢基金」との出会いは、それから3年後の2008年のことです。最初のお子さんは彝(イ)族の大変利発なお嬢さんでした。親思いで優しく、それでいてとても芯の強い人柄が、やりとりする手紙から伝わってきました。それから届く手紙には、彝族の祭や習慣、家族のこと、学校生活の様子、勉強や成績のことなど、多岐にわたって綴られるようになりました。私も家族のこと、身の回りの出来事、その年の主な活動や旅行のことなどを、わが子に伝えるかのように綴るようになりました。そうなんです。「25の小さな夢基金」で出会うお子

さんたちはいつの間にかわが子のような存在になっていました。以来、拉枯(ラフ)族、基諾(ジノー)族、白族、傣(リス)族、漢族、普米(プミ)族などのお子さんたちと出会うことになりました。協会創立10周年記念に際して来日した子と東京ではじめて顔を合わせたこと、雲南での卒業式にお母さんが日本からよりも遥かに長い時間を掛けて会いに来てくれたこと、病気のため退学し治療後、地元の学校に就学し直した子、大学進学後も手紙をくれた子、枕詞に諺を置き美文調の手紙を書く子など、思い出は尽きません。

卒業式と生徒さんの地元訪問旅行には2度同行させて頂きました。都会の近代的なビル群から一転して自然豊かな生徒さんの郷里に入り、地域挙げての手厚い歓迎を受けたことは忘れられません。言葉は通じないが満面の笑顔に接すると、自然に気持ちが通じ合う体験を何度もしました。行く先々でたくさんの方々と出会い、その都度視野が広まりました。貧困と劣悪な生活環境にもかかわらず、みな自信と誇りを胸に私たちを遇するその姿勢に人と人との関わりの大原則を学ばされました。



大崎功雄さん(右)



全国巡回写真展「笑顔に君に」札幌特別展(2013年8月)

私の出会った少数民族の子たちはみな家族のこと、故郷の発展のこと、自分が受けた教育機会のこと、そして将来の夢について手紙の中で綴ってくれました。いつかこの子たちの夢を追いかけている自分に気づいたものです。そしてまた、この子たちの中に生きることが自分の夢であることにも気づきました。個人の生は有限ですが、その夢や思いは他者の中に引き継がれ脈々と生き続けます。出会いとは希望を繋いでいくバトンタッチのようなものです。日本雲南聯誼協会との出会いは「人間らしく生きる」という私の希望を繋いでくれました。その協会は来年創立20周年を迎えます。ますますの発展をここに祈り、筆を置きます。

「25の小さな夢基金」サポーター 大崎功雄

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第24回 ● ブランニューダンスマーケット

「ダンス」で協会の活動はもとよりさまざまな社会貢献活動を行っているブランニューダンスマーケットの能見広伸氏を練習場にお訪ねし、能見氏の恩師でもある寒水泰江先生を交えてお話をうかがいました。

会社概要

設立：1994年6月4日
所在地：〒191-0043 東京都日野市平山 5-11-32 大沢コーポ1階
HP <http://bndm.co.jp/>
ブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/bndancemarket>
Facebook <https://www.facebook.com/brandnewdancemarket/>
日野スタジオ、新宿教室、南大沢教室にて展開

お約束の時刻。練習場のドアを開けた途端、軽快にリズムを刻む手拍子と明るいテノールの声が耳に飛び込んできました。大いに緊張して中へ入ると、指導待ちの生徒のみなさんが三々五々柔軟体操をしたり、振り付けの練習をしたり、まるで舞台裏のような雰囲気。そこはかたなく熱気が伝わってきました。



練習は真剣そのものです

「あなたあっち、わたしこっち、はダメだよ！」
能見先生が自ら踊り

ながら、連続する動きの要を指導します。生徒はその動きの一つ一つに真剣な眼差しを注ぎ、すぐさまそれを繰り返します。全員の動きが手の先、足の先、目の先まで一つになって停止。

「そ〜う！」
能見先生が叫ぶと、張りつめた生徒の顔が弛みしました。

寒水先生は今年、御年齢82歳、舞踊家生活65年を迎えます。能見氏とはかれこれ40数年、能見氏のお父上の代からの繋がりが深いです。能見氏の父上は、日本が高度経済成長を迎えた1950年代、数寄屋橋の「日劇」でトップダンサーとして活躍され、日本のダンス界を牽引した方で、当時、寒水先生もその指導を受けました。そのご縁で、能見氏が父上の跡を継いでダンサーの道に進まれたとき、寒水先生に師事しました。のちに能見氏はダンス集団「ブランニューダンスマーケット」を主宰し、テレビや舞台などのさまざまな商業活動と平行して、東京都



能見広伸先生(左)と寒水泰江先生

内で常設のダンス教室を運営するかたわら、全国各地の幼稚園から小中高大学のダンスサークルの指導に奔走しています。

能見氏は「ダンスはアンサンブル、調和が美しさを作り出す」と言います。寒水先生は「踊りは人の価値観、人となりを映し出し、踊ることは「自分の内を見つめ、肉体と心で対話する」ことであり、「素直さと協調」がなによりも大切だと仰っていました。

能見氏と協会とのつながりは、10数年前、協会の法人会員JR総連のご紹介に始まります。2001年にニューヨークで発生した「9.11テロ事件」を契機に、能見氏は「戦争が始まってしまふのでは」と強い危機感を覚え、ダンスで反戦を訴える路上パフォーマンスを行いました。その様子が全国紙に取り上げられ、その主旨と行動に賛同したJR総連が連帯を申し入れ、反戦路上パフォーマンスは東京から全国へ

広がっていきました。その後、JR総連のご紹介で協会との交流が始まり、協会の活動支援はもとより、毎年恒例の忘年会ではダンスパフォーマンスで会場を盛り上げていただいています。「協会の主旨はもちろんですが、理事長には、「ソ〜と言えない」魅力があります」と能見氏は笑っていました。

将来の夢をうかがったところ、「日本のダンス作品を受け継ぎ、新しい作品を生み出したい」と能見氏。また、「寒水先生の作品を世界に紹介したい」とも。「生活の中から独自の動きが生まれる」と寒水先生。ダンスは西洋伝来の文化ですが、日本に定着して日本人のリズム、動きが独自の文化になっているそうです。寒水先生は「ダンスを通して異文化の交流、人と人のつながりに貢献したい」と仰っていました。その一つとして、「2010年に頓挫した雲南省公演を来年、是非とも実現したい」と力強く語ってくれました。桜満開の春の一晚、勇気と元気をいただいたインタビューでした。

優しい笑顔で指導する能見広伸先生



2018年度 新会員ご紹介(入会順、敬称略) (2018年4月1日~2019年3月31日)

伊原甲一、葛海暎、蘇鑫、大理市霓虹橋教育咨询服务部、劉艶、張競予、許峰、栗田久里子、小松翠、蔡偉、三上裕司、小林幸弘、周軍、藤江林玲、釈妙音、大塚辰夫、張筱彬、高田ゆみ、小野寺梨紗、加藤継富、徐雅珍、内藤洋一、張景芝、堀田みどり、上野紘志、羅時珍、渡邊真佐美、一般財団法人一带一路日中支援財団、詹孔朝、井上美咲、佐藤雅之、王慧、周琰寒、藤本裕子、林文情、村沢健児、顧暢

ご入会いただきました皆さま、ありがとうございました。

新規会員募集中

1か月500円からできる教育支援
雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!

協会の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

正会員	一口 6,000円 (500円/月)
賛助会員	一口 12,000円 (1,000円/月)
法人会員	一口 18,000円 (1,500円/月)

※法人会員は3口以上でお願いします

お申し込み
協会公式HP → 支援に参加する → 会員になる
(<http://www.jyfa.org>)

協会活動を応援して下さる会員を募集しています!

※ 正会員と法人会員には総会における議決権があります。賛助会員は事業・活動に賛同し、賛助していただくため議決権はありませんが、賛助会費は寄付金控除の対象となります。
※ 4月1日から3月31日までを1年度とします。
※ 年度途中で入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。

会員には会員証を発行し、会報誌『彩雲の南』を年4回(2月、5月、8月、11月)、お送りいたします。



リス族の子ども

絵本でつながる支援の心

‘わりい’ 佐藤紀子さん

大好きな宮澤賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に絵を加え、自費出版された‘わりい’会員の「毛毛龍(まおまろん)」こと佐藤紀子さん。「雲南の子どもたちのために」と収益の一部を寄付してくださりました。‘わりい’代表の寺西英俊さんと副代表の有為楠君代さんが3月4日に事務所を訪れ、初鹿野恵蘭理事長が寄付を受け取りました。‘わりい’の皆さんには翻訳ボランティアとしても長年ご協力いただいております。心より感謝申し上げます。



左から寺西英俊さん、初鹿野恵蘭理事長、有為楠君代さん

雲南省山郷への思い

雄大な自然、そして多彩な文化をもつ雲南省山郷の子供たちへ届けたいものがあるとしたら、それに匹敵するようなのではないかと思いませんか。そこにある山にも川にも負けないような、子供たちの瞳や純粋な心にも匹敵するよう、そんなような何かを。

子供たちの心に種を植えようではないか。麗江がかつて、そして今でも雲南の子供たちの心に植えつつけているような種を。

賢治のイーハトーブという種をプレゼントしたい、そしてその一つの種がいつか大きな木になるように、雲南に植えておきたいと思う。子供たちひとりひとりのドリームランドが、もっともっと美しき雲南の明日へとつながってくれることを願っている。未来の心へイーハトーブを届けたい、アートの心を届けたい。

佐藤紀子(毛毛龍 mao mao long)

協会ボランティア通信 連載 第10回



寺内明子大宮支部長のご紹介で協会を知り、会員として、「25の小さな夢基金」サポーターとして、ボランティアとしてお母さんの優しさで温かく応援して下さっている呉嵐さん。二人の息子さんたちも国際協力に興味があり、親子でグローバルフェスタや八王子いちようまつり等にご協力いただいております。

呉嵐さん(写真右 2017年11月東京都多文化フェスにて)

皆さん、こんにちは。私は呉嵐(ウーラン)と申します。1993年に留学のために来日し、その後、日本での就職、結婚、子育てなど人生の大事な節目を経て、色んな人に助けられながら今日に至ります。今度は逆に少しでも世の中に恩返ししなければいけないと思い、自分の子どもの教育の観点からも、これからは可能な範囲内で困っている人に手を差し伸べることができればいいなと思っていた矢先、友人からの紹介で日本雲南協会のことを知りました。数あるNPO組織の中で、雲南省少数民族の女子生徒を一对一で直接支援できる点に協会事業の魅力を感じ、入会しました。現在は主に時間が取りやすい週末のボランティア活動を積極的に行っています。



呉嵐さん(中央)と長男の周世昭さん(右)

実は我が家の子どもは男の子二人なので、今、援助している雲南のどの女子生徒もかわいく感じます。また、ボランティア活動で幅広い年齢層の方々に出会って、毎回楽しく過ごせています。

協会のボランティア活動を通じて、経済発展がだいぶ進んでいる今の中国でも、学校に行けない山岳地帯に住む貧しい子どもたちがいることをもっと広く知ってもらいたいです。そして、理想として、誰もが人間らしく豊かに暮らせる社会になるよう、私たちは身近なところからできることを自ら進んで活動を行う必要があると痛感しています。これからもどこかでお目にかかることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお祈りいたします。



2017年9月 グローバルフェスタJAPAN(呉嵐さんは一番右)

イベント報告

千代田区立和泉小学校ビッグバンドクラブ 中国雲南省教育支援チャリティー公演



「中国雲南省教育支援チャリティー公演」が3月30日、千代田区立和泉小学校で開かれ、ジャズクラリネット奏者の谷口英治さんと同小ビッグバンドクラブが共演しました。

主催：千代田区立和泉小学校ビッグバンドクラブ 協会ボランティア(順不同、敬称略)：裴悦徽、王溯、釈妙雪、劉飛雪、李瑞穎、吳嵐、朱曉薇



チベット族の衣装の初鹿野恵蘭理事長



谷口英治さん

音楽は国境を越えて、世界を繋ぐ

小学校教育は実社会の縮図であり、社会との接点を持って、子供達が将来への夢を描ける場なくてはならないと考えています。

また「本物に触れる」ことを重視し、音楽界で活躍する一流の音楽家との交流や、オリンピック・パラリンピック公式イベントにも参加しています。

2018年は日中友好平和条約締結40周年の節目の年でした。「日本と中国の友好関係を築くために何が出来るだろうか?」

今回、洗足学園音楽大学のご協力もあり、日本を代表するジャズ・クラリネット奏者の

谷口英治さんを特別ゲストに、トランペットの河原真彩さん、テナーサックスの小笠原涼さん、ベースの長谷川慧人さん、ピアノの相馬ゆかりさん、ドラムの利光玲奈さんにも演奏に加わっていただきました。

お客様からも好評で「小学生の演奏とは思えない」「中国に対するイメージが変わり、雲南省を訪れたい」と言われました。

千代田区立和泉小学校 音楽専科 植場鉄平

大宮支部 イベント報告

さいたま市国際友好フェア2019 大宮支部今年も出展

5月3日(金・祝) 4日(土・祝)

初日の朝、荷物を載せた車が会場に到着すると、常連のメンバーが手際よく荷物を運び、展示ブースはわずか1時間で準備完了。



ボランティア協力(順不同、敬称略)：鳥羽清広、川口邦夫、大泉國雄、高橋福子、市川由美子、横山苗、青柳茂樹、金子沙樹、大野由美子、佐々木英介、久継智弘、佐藤正典、李峰、寺内明子

大宮支部支部長 寺内明子

イベント報告

中国大使館主催 国際婦人デー記念レセプション

初鹿野恵蘭理事長 出席

2月27日の夜、3月8日の「国際婦人デー」を祝う中国大使館主催「2019年国際婦人デーパーティー」が今年も催され、日中各



右から2人目、詹孔朝中国大使館総領事(夢基金会員)

界を代表する女性約300名が参列しました。程永華駐日本国特命全権大使は「中日関係において女性がますます大きな力となり、中日の女性が両国関係の支えとして積極的に交流を行い、関係改善に貢献した。新たな時代が始まる今年は中日両国の男女が力を合わせ、両国の友好増進、世界平和のために一緒に尽力していくことを願う」と挨拶しました。

第36回全国公募墨美展・祝賀会

水墨画家の杉谷隆志前専務理事が会長を務める墨美会の第36回全国公募展・墨美展(4/26～5/2)が今年も東京都美術館(東京都台東区上野公園内)にて開催されました。



近藤 鈿一名古屋支部長



理解は絆を強くする

挑戦! 中国百科検定①

『中国百科検定』は「日中両国の関係改善のためには、まず相手国への理解を深めることが大切」との強い思いから2014年に誕生。

「理解は絆を強くする」とのキャッチフレーズで立ちあげ、第1回試験は、東京、大阪、福岡の3会場、第2回は全国32会場に広がり、2018年12月の第5回試験まで、のべ2,000名が受験しました。

第5回試験で新設された「初級」は中国に特別に関心がない人でも知っているような知識を問う、小中学生でも受験できるレベルとしています。

Q1 中国の正式名称はなんというでしょう。

- 1 中華民主主義共和国 2 中華人民共和国 3 中華民国 4 中華人民民主主義共和国

Q2 世界の総人口は現在およそ75億人、日本の人口はおよそ1億2,642万人と推計されています。世界で人口が一番多い国は中国ですが中国の人口はおよそ何億人でしょう。

- 1 5億人 2 10億人 3 14億人 4 20億人

Q3 中国の正月は何と言うでしょう。

- 1 中秋節 2 降誕節 3 春節 4 端午節

初級の他、3級(ものしりコース)、2級(中国通コース)1級(百科教師コース)、特級(マスターコース)があり、1級の受験は2級の合格、特級の受験は1級の合格が条件となっています。

次回(第7回)は今年12月実施予定です。次号では3級の問題をご紹介します。

ご協力：日本中国友好協会

解答 Q1 2、Q2 3、Q3 3



イベント情報

雲南省少数民族児童教育支援 第15回チャリティーゴルフコンペ

日時：9月14日(土) 場所：鳩山カントリークラブ (埼玉県比企郡鳩山町大橋1186-2)

グローバルフェスタ Japan2019

日時：9月28日(土)、29日(日) 場所：お台場センターブロード (東京都江東区青海) ※協会ブースは決まり次第、FB・メール通信などお知らせします

第40回 八王子いちよう祭り

日時：11月16日(土)、17日(日) 協会出展場所：並木町郵便局横 (東京都八王子市)

第19回 チャリティー忘年会

日時：12月14日(土) 場所：ピヤステーション恵比寿(予定) (東京都渋谷区)

「25の小さな夢基金」 上海日本人学校昆明訪問

日時：12月下旬(予定) 場所：昆明市女子中等

お知らせ

- ・グローバルフェスタ Japan2019 ・八王子いちよう祭り ・チャリティー忘年会

一緒に盛り上げていただける ボランティア大募集中!



日本雲南聯誼協会東京本部事務局 TEL.03-5206-5260 (平日10~18時) yunnan@jyfa.org

編集後記

先日、中学生に「考える事と書く事」と題して講演しました。考えるというのは、様々なことを自分のこととして受け止め、判断することでもあります。

(編集長・木本一彰)